

令和2年7月豪雨 町へ深いつめ跡

PASCO
Surveying the Earth to Create the Future

2020年7月29日（水）撮影：株式会社パスコ / 国際航業株式会社
令和2年7月豪雨災害（山形県）

↑大石田町被災後の上空写真(虹の大橋周辺)

町民の皆さまへ

この度の災害で、家屋の浸水や農作物の冠水などで被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。7月28日、降り続く雨による土砂災害発生懸念から、町は午前11時30分に次子地区に避難準備情報を発令し、午後には最上川の水位上昇が予想されたことから浸水の恐れがある地域を対象に避難準備情報、続いて避難勧告を、午後7時30分には避難指示を発令して、町民の皆さまへ避難を呼びかけさせていただきました。

その後も最上川の水位は上昇し続け、29日午前2時には観測史上最高の18m59cmを記録し、29日朝までに町内3か所で氾濫が発生しました。町内で最上川が氾濫したのは昭和44年8月の大洪水以来のことで、特殊堤防が完成してからは初めてでした。

多くの町民の皆さまに早めの避難行動をとっていただいたことから、幸いにも人的な被害はありませんでしたが、一方で、家屋や田畑、道路等への被害は甚大でした。住宅被害は床上・床下浸水95棟、農地の被害では収穫期にあったすいか畑や出穂間近の水稻、種が播いたばかりのそば畑などが被災しました。また、上水道の水源場が冠水したことから、町内のほとんどの地域で4日間にわたり断水が発生しました。

町では、災害ごみの処理や、り災証明書の発行など被災者支援に全力で取り組んでいるところですが、至らぬところも多く、厳しい生活を強いられている皆さまに多大なるご不便をおかけしております。

引き続き、被災者の方が抱える喫緊の課題解決に全力を注ぎ、一日も早く元通りの生活を送っていただけるように、国や県、諸関係機関と連携し、進めてまいります。

大石田町長

村岡 藤弥